

## 指導と評価の計画

領域 球技（ネット型） バドミントン

学年：入学年次の次の年次以降（3年次）

単元の目標		時										授業づくりのポイント			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
<p><b>知識及び技能</b></p> <p>次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。</p> <p>イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。</p>															
<p><b>思考力 判断力 表現力等</b></p> <p>生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p>															
<p><b>学びに向かう力 人間性等</b></p> <p>球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>															
学習の流れ	0	健康観察 ・ 準備運動 ・ 本時の目標確認 ・ 内容等の確認										<p>・ 3つの資質・能力の内容をバランスよく配置する。</p> <p>・ 主体的な学習を行うことができるようにする。</p> <p>・ ICTを効果的に活用する。</p> <p>・ 様々な違いに応じた課題や課題解決に向けた挑戦などを尊重できるようにする。</p> <p>・ 多様な関わり方を経験できるようにする。</p>			
	10	オリエンテーション 健康・安全知識の確認	【学び直し】 (各種ショットサービス) ○チームでポイントの教え合いと練習	ICT	【チーム練習】協働学習 手投げノック (スマッシュ・ブッシュ・ヘアピン) ドライブラリー スマッシュ&レシーブ、ドロップ&ロブ	ICT	【チームでのパターン練習】協働学習 2対2 (トップアンドバック対サイドバイサイド) トップアンドバック側 サービス→返球が前方→前衛 (ブッシュ・ドロップ・ヘアピン) →返球が後方→後衛 (ドライブ・スマッシュ) サイドバイサイド側 守りに徹する	ICT	作戦会議 (・ペア・フォーメーション・練習内容)	【チームごとの練習】協働学習 ・個人の特徴を活かせるショット練習 ・展開を想定したケース練習	ICT		調整の手立て	自分(自チーム)の長所を見つけ、チームに貢献できる役割や戦術などを考える	
20	スキルチェック (各種ショットサービス)	ダブルスの安全・知識の確認 チーム戦の説明	公式戦 (順位入れ替え戦) ※ダブルス (チーム戦)				調整の気づき	調整の手立て				調整の振り返り			
30	実態把握 試しのゲーム ※チャンピオンシップ 順位をチームやダブルスペア決めの要素とする。	ICT	試しのゲーム ※ダブルス (チーム戦) 練習試合	ICT	【具体的なICTの活用方法】 ①各ショットにおけるフォームやペアのポジショニングを確認する。 ②得点や失点に繋がる要素を見つける。				ICT	公式戦 (トーナメント)					
40	ショット動作の確認	記録・ビデオ撮影・振り返り方法の説明	調整の振り返り	記録・ビデオ共有・振り返り				調整の振り返り	調整の手立て						
50	整理運動 ・ 本時のまとめ ・ 次時の課題など														
評価機会	知識		(2)	(2)					(1)				総合的な評価	振り返りシート 観察 動画提出 振り返りシート 観察	
	技能								(1)	(2)		(3)			(4)
	思・判・表			(3)	(2)				(3)	(1)					
	態度	(1)	(1)							(2)	(3)	(3)			
単元の評価規準	知識	①球技の型や種目によって必要な体力要素があり、その型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。 ②競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、言ったり書き出したりしている。													
	技能	①サービス (サーブ) では、相手のポジションに応じて強弱高低等の変化をつけて打つことができる。 ②変化のあるサーブに対応して、相手に攻めさせないレシーブをすることができる。 ③シャトルを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 ④ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きができる。													
	思・判・表	①課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。 ②体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。 ③チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。													
	態度	①危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。 ②仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ③一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。													